

さかい利晶の杜企画展

生誕  
150年

# 与謝野 鉄幹

—新世界をわが手にて  
開きたく候 鉄幹—

令和5年11月18日(土)

—令和6年1月14日(日)

時 間：9時～18時(最終入館17時30分)

休館日：毎月第3火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

会 場：さかい利晶の杜 企画展示室

観覧料：大人300円、高校生200円、中学生以下無料

※「与謝野晶子記念館」「千利休茶の湯館」の観覧券で  
企画展示室もご入場いただけます。

主 催：堺市

協 力：与謝野晶子倶楽部

SAKAI  
RISHO  
NO  
MORI

## さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko



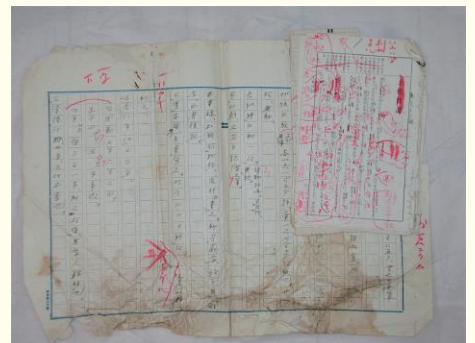
左：与謝野鉄幹 書齋にて 与謝野光氏旧蔵  
右：『与謝野寛短歌全集』(藤島武二画)(部分) 堺市博物館蔵



『与謝野寛短歌全集』(昭和8年(1933)、明治書院刊) 堺市博物館蔵



与謝野鉄幹・晶子、江南文三書画幅 渡辺家蔵



与謝野鉄幹筆『日本古典全集』「土佐日記」校正原稿 堺市博物館蔵



与謝野鉄幹還暦記念展の会場にて(正面右が鉄幹、左が晶子) 与謝野光氏旧蔵

与謝野鉄幹(本名、寛)は明治6年(1873)、京都市の岡崎に生まれました。  
二十歳で上京した鉄幹は、旧派の和歌を批判し近代短歌の革新を成し遂げます。明治33年(1900)には文学美術雑誌『明星』を刊行し、与謝野晶子をはじめ、石川啄木や山川登美子、北原白秋や吉井勇などの若い歌人たちの才能を開花させました。この頃に用いたのが「鉄幹」(老梅の幹という意味)の雅号でした。

その後、時代の流れとともに鉄幹は歌壇の中心からはずれ、妻の晶子の方が世の中に求められていきます。苦悩する日々の中でも、鉄幹は作歌だけにとどまらず、訳詩に挑戦したり、日本語源の研究や古典文学を普及したりするなど、文学史において重要な活動を行っていたことはあまり知られていません。  
本展では、鉄幹の著書や原稿、創作ノートや書簡などを展示します。また、鉄幹の弟子であり友人であった新潟県佐渡の実業家、渡邊湖畔(1886-1960)のもとに遺された貴重な資料の数々を、渡辺家の特別なご協力によりお借りし、展示いたします。  
鉄幹生誕150年の節目に、知られざるその業績と、生涯にわたって持ち続けた文学への探究と情熱を紹介します。本展が鉄幹の再評価につながる機会となれば幸いです。  
\*「鉄幹」の雅号を明治37年(1904)に廃し、以降本名の「寛」で執筆活動を続けていますが、本展では混乱を避けるため「鉄幹」で統一しています。ただし、作品名・引用文・釈文については「寛」のまま表記しました。

【関連事業】

学芸員による展示解説

日時：12月7日(木)(晶子生誕日) 午前10時30分～  
令和6年1月13日(土) 午後1時30分～(各日20分程度)  
場所：さかい利晶の杜 企画展示室  
参加費：無料(展示観覧券が必要)

与謝野晶子倶楽部 × さかい利晶の杜  
「晶子入門講座」第3回  
日時：11月18日(土) 午後2時～午後3時30分  
テーマ：与謝野家のルーツ礼讃と京都  
-生誕200年を記念して-  
講師：古澤 夕起子(同志社女子大学等非常勤講師)  
会場：さかい利晶の杜 2階講座室  
参加費：会員無料、一般300円(展示観覧料を含む)  
定員：各回40名(先着順・要申込み)  
\*申込方法など詳しくは当館HP、もしくは与謝野晶子倶楽部へ。

SAKAI RISHO NO MORI さかい利晶の杜 Sakai Plaza of Rikyu and Akiko  
千利休茶の湯館 茶の湯体験施設 与謝野晶子記念館 観光案内展示室  
〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1  
電話：072-260-4386 FAX：072-260-4725  
https://www.sakai-rishonomori.com

二月二十五日 二十六日 二十七日  
石井柏亭 正宗得三郎 潘耆楓 三書画  
共謝野寛 日昭子 両先生 瑩製  
梅花六十一幀會展  
與謝野寛先生 滿六十年 誕辰記念展  
會場 京橋 高島屋  
共謝野両先生 著書 雜誌 展覧

与謝野鉄幹還暦記念展のポスター(石井柏亭画) 個人蔵